

登録コード	L2520200		開講年度	2026			
担当教員	飯岡 詩朗			副担当			
授業科目	英語文学概論Ⅱ						
英文授業名	Introduction to Literature in English II						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・4時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			⇔	英米の文化の理解を通して、新たな認識を構築できる思索力が身につく。		
	【2022年度以前カリ対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力			⇔	英米の文化の理解を通して、変容する社会を冷静に分析し、価値判断できる批判力が身につく。		
	【2022年度以前カリ対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			⇔	英米の文化の理解を通して、過去の英知の批判的に継承し、創造的な未来を切り拓くことができるようになる。		
	【2022年度以前カリ対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多面的に判断することができる受容力			⇔	英米の文化の理解を通して、異質・多様なものを理解し、寛容かつ多面的に判断することができるようになる。		
	【2022年度以前カリ対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			⇔	英米の文化の理解を通して、情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシーが身につく。		
	【2022年度以前カリ対象】他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー			⇔	英米の文化の理解を通して、他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシーが身につく。		
	【2022年度以前カリ対象】グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力			⇔	英米の文化の理解を通して、グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力が身につく。		
	【2022年度以前カリ対象】領域横断的な事柄に対する問題解決能力および創造的な企画構想能力			⇔	英米の文化の理解を通して、領域横断的な事柄に対する問題解決能力および企画構想能力が身につく。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			⇔	英米の文化の理解を通して、人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力（思索力・受容力・批判力）が身につく。		
	授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働					
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	アメリカ、イギリスの文化は、現代の世界に広く浸透しており、それをアメリカ、イギリスの文化として強く意識することはできなくなっています。その意味で、アメリカ、イギリスの文化はグローバルな文化と言うことができますが、一方で私たちにとって容易には理解しがたい異文化としての側面も持っています。 「英語文化概論」では、アメリカ、イギリスの文学・文化の歴史や特質についての基礎的な知識を身につけ、それらを学ぶための基礎をつくることをねらいとします。また、現代においてアメリカ、イギリスの文化を学ぶことの意味についても考えていきます。 Ⅱでは、イギリスおよびアメリカの文化を中心に扱います。イギリスおよびアメリカの文学はⅠで扱います。 イギリスおよびアメリカの歴史をふまえ、イギリスおよびアメリカ文化に関わる基礎的なトピックについて概説していきます。 また、イギリスおよびアメリカ文化の基礎知識を習得するだけでなく、問題発見能力と思考力を養成するために、小テストや発表などを課すことがあります。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 トランプ2.0時代のアメリカとイギリス 第3回 イギリス文化の特質（1）：多民族・多文化国家としてのイギリス 第4回 イギリス文化の特質（2）：階級と社会階層 第5回 アメリカ文化の特質（1）：アメリカ独立宣言と合衆国憲法の理想と現実 第6回 イギリス文化の特質（3）：美学とナショナル・アイデンティティ 第7回 アメリカ文化の特質（2）：ブアホワイと BLM 運動 第8回 アメリカ文化の特質（3）：アメリカ黒人の歴史と文化（1）奴隷制から公民権運動 第9回 アメリカ文化の特質（4）：アメリカ黒人の歴史と文化（2）黒人音楽の歴史 第10回 アメリカ文化の特質（5）：移民と文化の混血性 第11回 アメリカ文化の特質（6）：映像文化（1）初期映画から古典的ハリウッド 第12回 イギリス文化の特質（4）：映像文化（1）初期映画から映画法 第13回 アメリカ文化の特質（7）：映像文化（2）検閲/自主規制と創造性 第14回 イギリス文化の特質（5）：映像文化（2）ドキュメンタリー運動と社会派リアリズム 第15回 まとめ：現代のイギリス／現代のアメリカ+授業アンケート 変更することがあります。 詳細は第1回目の授業で説明するので、かならず出席してください。						
成績評価の方法	平常点（レスポンス・フォームや小テスト、発表等50%）、試験試験（50%）によって総合的に評価します。「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」に						

成績評価の方法	より欠席し、補充を受けた場合を含み、欠席回数が5回を超えると、授業の達成目標に到達することができないため、単位が認定されません。（再試験や追加課題等による救済はおこないません。）
成績評価の基準	平常点は、1) 授業範囲の教科書の理解、2) 講義内容の理解、3) 教科書と講義を踏まえた考察力の3項目から評価します。3項目すべてを完全に達成できていれば「卓越している」とし、3項目の達成度合いにより、「かなり上にある」、「やや上にある」、「水準にある」とします。 期末の筆記試験では、イギリスおよびアメリカ文化に関するトピックを歴史的にとらえる力、イギリスおよびアメリカ文化に関する初歩的思索探求力が習得できているかを問います。具体的に問われるのは以下の3項目です。1) イギリスおよびアメリカ文化の展開・変遷を正確に理解できているか；2) イギリスおよびアメリカ文化に関わる基本的な知識を習得できているか；3) イギリスおよびアメリカ文化の特徴を正しく説明できるか、これらの3項目すべてを完全に達成できていれば「卓越している」とし、3項目の達成度合いにより、「かなり上にある」、「やや上にある」、「水準にある」とします。
事前事後学習の内容	授業計画にあわせて、毎週予習復習をかかさずおこなってください。 授業前には、その週に取り上げる範囲の教科書を熟読するなどし、自分なりの疑問点などを明確にしておくようにしてください。 授業後には、その週に取り上げる範囲の教科書を再読するなどともに、参考書や授業内で紹介した文献、動画等を合わせて読む・見るなどして、理解を深めてください。
履修上の注意	初回に授業の進め方を説明しますので、履修希望者は初回の授業をかならず受講してください。 教科書に書かれていることを土台に講義をしますので、予習を欠かさず行うようにしてください。また、単に週1回講義を聞くだけで終わってしまうことがないように、講義の内容に関係のある資料を配布したり、文献、映像資料等をそのつど紹介しますので、それらを積極的に読んだり見たりし、より多くの知識を吸収できるよう努めてください。 「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」により欠席し、補充を受けた場合を含み、欠席回数が5回を超えると、授業の達成目標に到達することができないため、単位が認定されません。 出席確認システムにより出席を取りますので、スマートフォン等のQRコード読取り端末を忘れず携帯し、授業開始時刻までに速やかに着席登録してください。QRコード読取り端末を忘れたり所持していない場合は、学生証持参で原則授業開始前に教員に申出てください。また、30分を超える遅刻は欠席として扱われます。（他の学生に成り代わり授業に出席又は代返等の行為を行った者並びに同行者を依頼した者は単位を認定しません。）出席確認システムにより出席が確認できた場合も、同日のレスポンスフォームの提出がない場合は、欠席とみなします。 「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」による欠席については、規定の申出書による申し出があれば、学修の補充を行います。ただし、補充を受けた場合でも、欠席回数が5回を超えると、授業の達成目標に到達することができないため、単位が認定されません。
質問、相談への対応	原則、授業後に対応します。授業後以外の質問、相談は、直接研究室を訪問せず、事前にメールで連絡してください（実際の対応は研究室以外で行うことがあります）。メールアドレスは人文学部履修案内に掲載されています。
教科書	・下楠昌哉編『イギリス文化入門〔新版〕』三修社、2023. ・杉野健太郎編『アメリカ文化入門〔新版〕』三修社、2023.
参考書	・阿川尚之『憲法で読むアメリカ史（全）』ちくま学芸文庫、2013. ・アメリカ学会編『アメリカ文化事典』丸善出版、2018. ・荒このみほか『アメリカを知る事典 新版』平凡社、2012. ・イギリス文化辞典編集委員会編『イギリス文化辞典』丸善出版、2014. ・井野瀬久美恵『イギリス文化史』昭和堂、2010. ・板倉巖一郎ほか『映画でわかるイギリス文化入門』松柏社、2008. ・上杉忍『アメリカ黒人の歴史』中公新書、2020. ・梅崎透ほか編『よくわかるアメリカの歴史』ミネルヴァ書房、2021. ・遠藤泰生、小田悠生編『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2023. ・大和田俊之『アメリカ音楽史』講談社、2011. ・奥村みさほか『映画でわかるアメリカ文化入門』松柏社、2007. ・北野圭介『新版 ハリウッド100年史講義』平凡社新書、2017. ・君塚直隆『よくわかるイギリス近現代史』ミネルヴァ書房、2018. ・木下卓ほか編『イギリス文化 55のキーワード』ミネルヴァ書房、2009. ・笹田直人ほか編『アメリカ文化 55のキーワード』ミネルヴァ書房、2013. ・指昭博『はじめて学ぶイギリスの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2012. ・杉野健太郎・大地真介編『アメリカ映画史入門』三修社、2024. ・竹田ダニエル・三牧聖子『アメリカの未解決問題』集英社新書、2025. ・巽孝之、宇沢美子編『よくわかるアメリカ文化史』ミネルヴァ書房、2020. ・藤永康政、松原宏之編『「いま」を考えるアメリカ史』ミネルヴァ書房、2022. ・A・ブライリィほか編『アメリカの文化 アンソロジー』大阪教育図書、2013. ・三牧聖子『Z世代のアメリカ』NHK出版、2023. その他、授業内で随時紹介します。また、上記「教科書」の巻末の文献リストも参考にしてください。